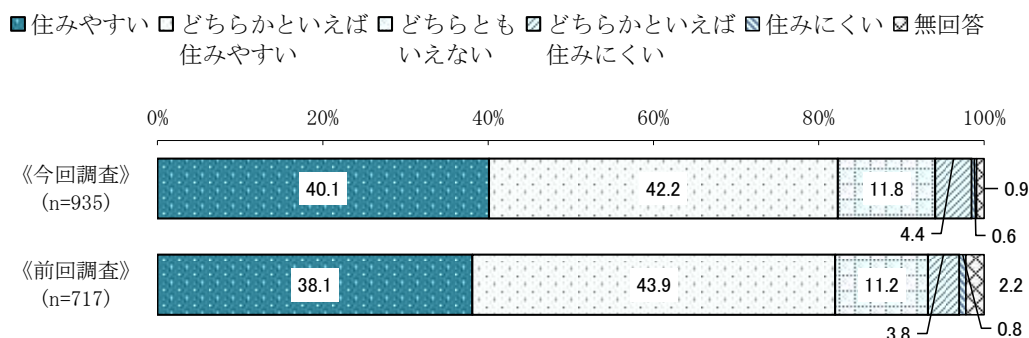
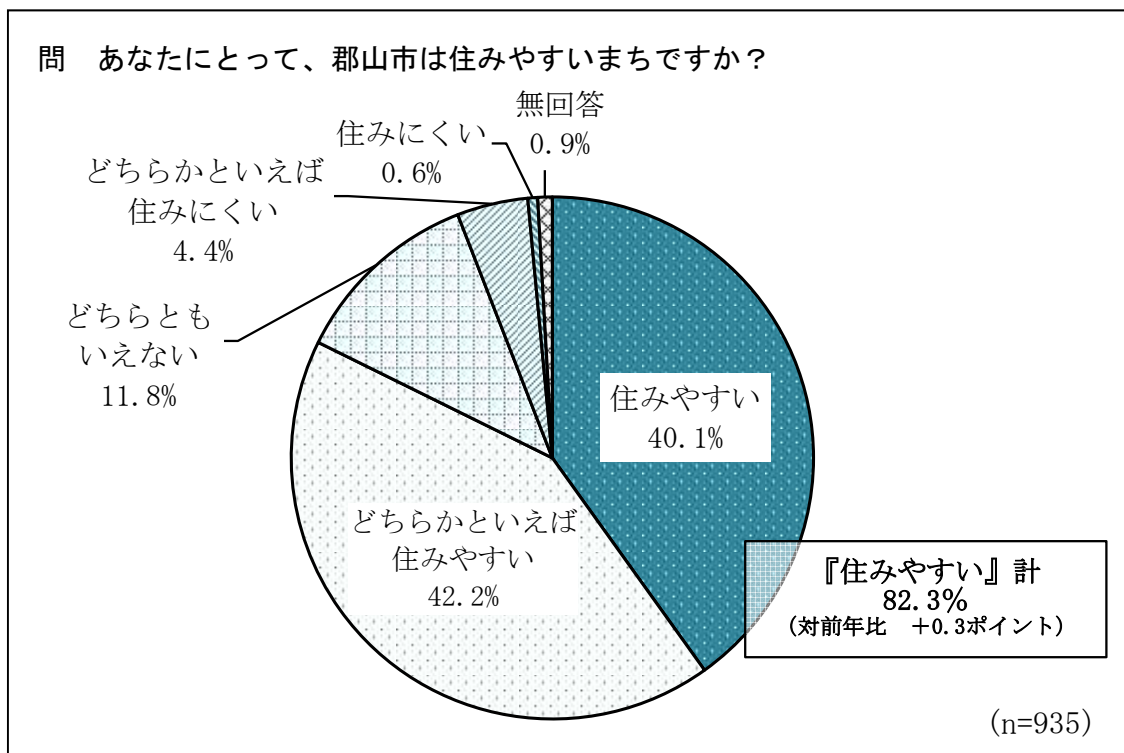


1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



8割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

【全体結果】

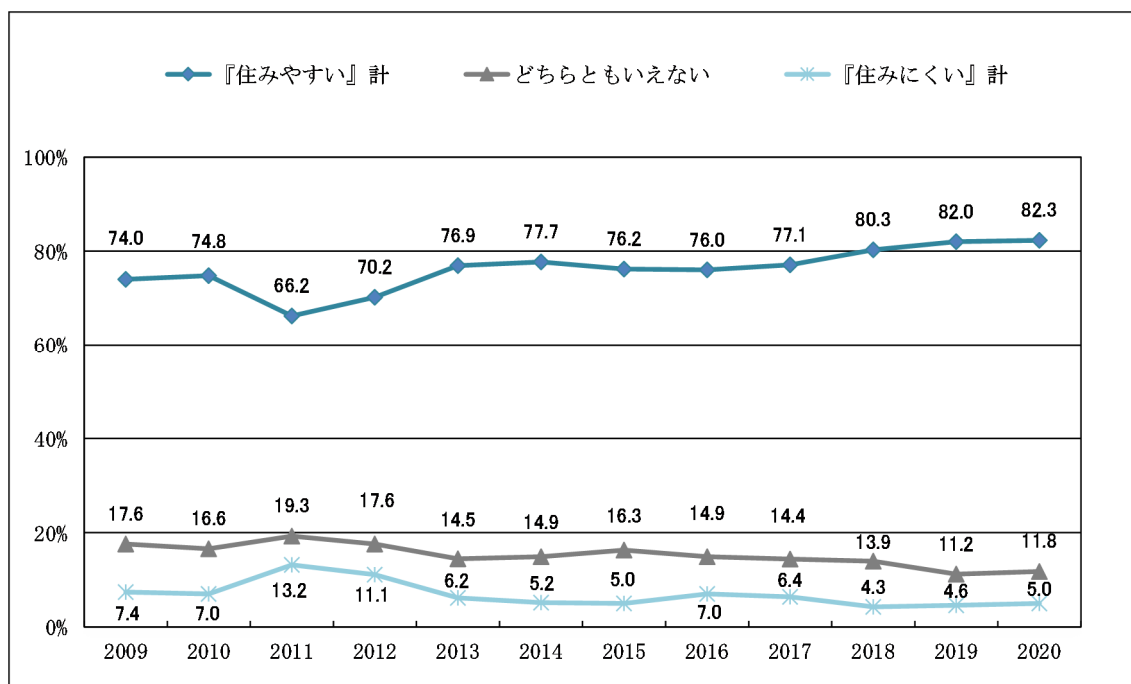
郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(40.1%)と「どちらかといえば住みやすい」(42.2%)の両者を合計した『住みやすい』計(82.3%)が8割強を占めています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.4%)と「住みにくい」(0.6%)を合計した『住みにくい』計は5%程度(5.0%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』計のポイントは0.3ポイント上昇しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、今回最も高くなっています。

(図1-1参照)

図 1-1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

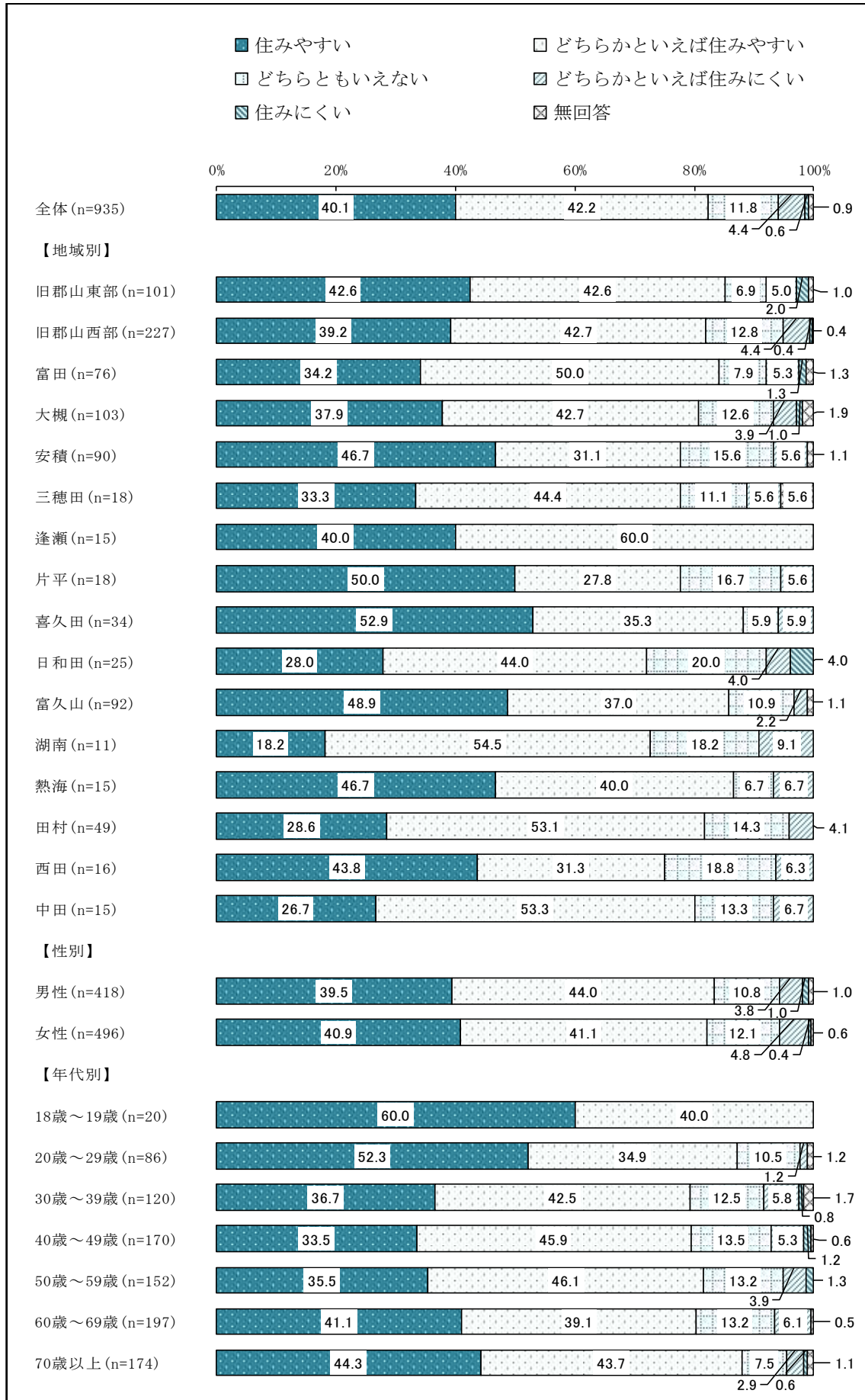
『住みやすい』計の割合は、男性（83.5%）の方が女性（82.0%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

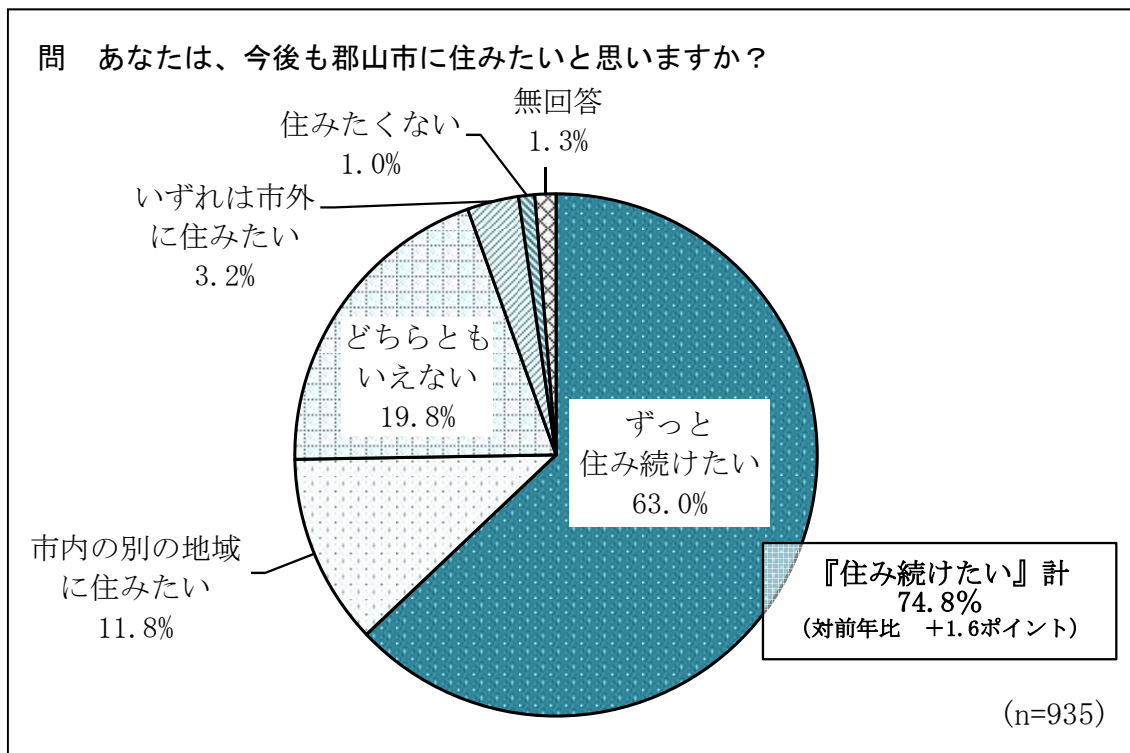
『住みやすい』計の割合は、すべての年代で8割前後となっています。

なお、10代については回答数がかなり少ないため、参考として数値のみ掲載します。（以降同様）

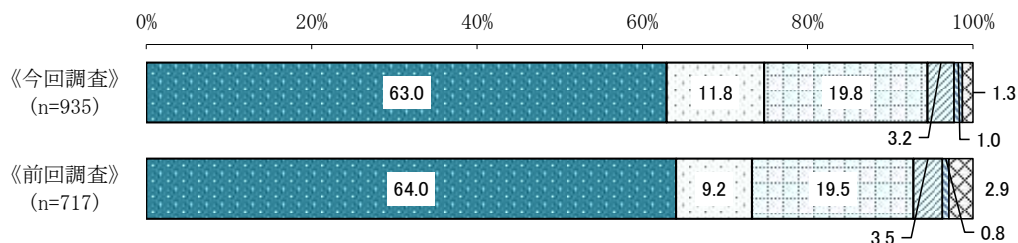
図 1-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向



■ ずっと住み続けたい □ 市内の別の地域に住みたい □ どちらともいえない □ いずれは市外に住みたい □ 住みたくない □ 無回答



7割の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしている

【全体結果】

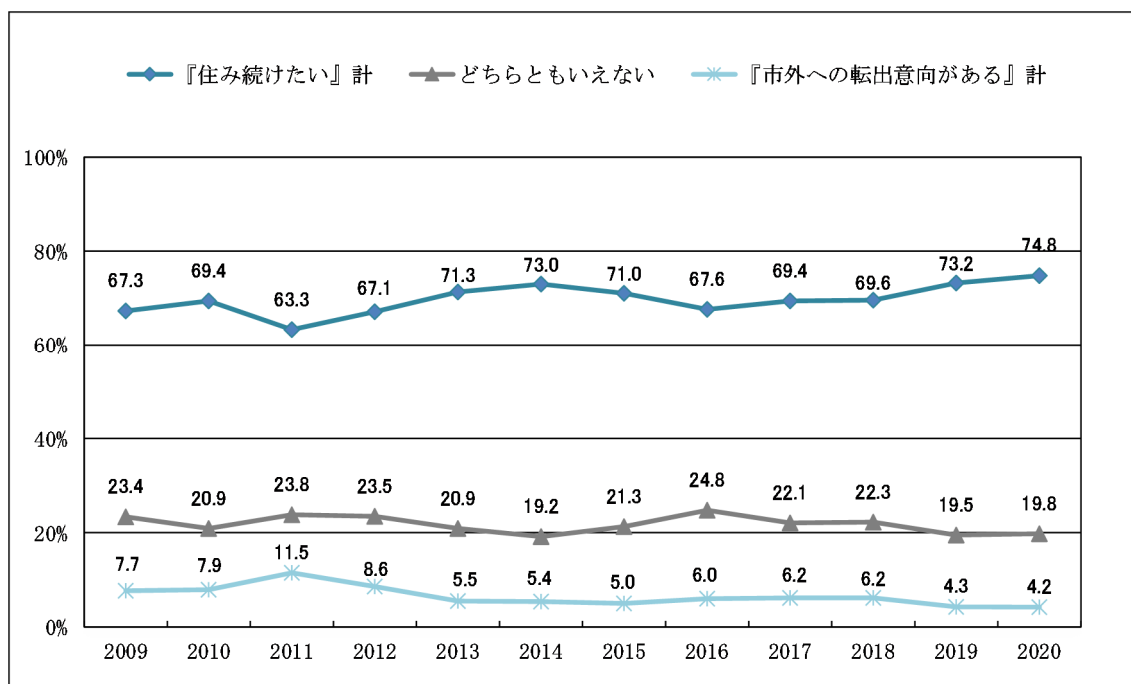
今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」（63.0%）と「市内の別の地域に住みたい」（11.8%）の両者を合計した『住み続けたい』計（74.8%）が7割強を占めています。

前項の『住みやすい』計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」の割合が『住みやすい』計よりも1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」（3.2%）と「住みたくない」（1.0%）を合計した『市外への転出意向がある』計は5%程度（4.2%）となっています。

なお、過去の調査結果との推移と比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』計は2011年をピークに減少し、2013年以降、5%前後で推移しています。2020年においては、調査開始以来、最も低くなっています。（図1-3参照）

図 1-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

① 性別

『住み続けたい』計の割合は、男性（76.3%）の方が女性（73.6%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』計の割合は、70代以上（89.7%）で最も高く、次いで60代（79.1%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』計の割合は、20代で7.0%、40代で6.5%、30代で5.8%と若い年代で割合が高くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）

